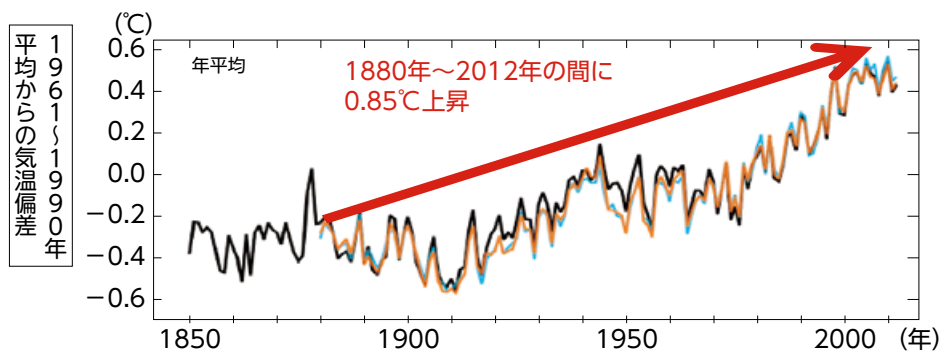


危機に立ち向かう

パリ協定

2015年12月、「パリ協定」という、地球温暖化に関する国際的な約束事が取り決められました。パリ協定は、地球温暖化の原因となる「温室効果ガス」の排出量の削減に向けて、先進国・開発途上国の区別なく、国ごとに目標を決めるとともに、目標達成に向けて取り組むことを取り決めた約束です。19世紀後半の産業革命からの世界全体の平均気温の上昇を、2℃より十分に下回るようにすること、そのために、今世紀後半には人間活動による温室効果ガスの排出を吸収と等しくし、実質ゼロにすることを目指しています。これは、石炭や石油などの化石燃料をできるだけ燃やさない社会へ変えなければならない、ということの意味しています。

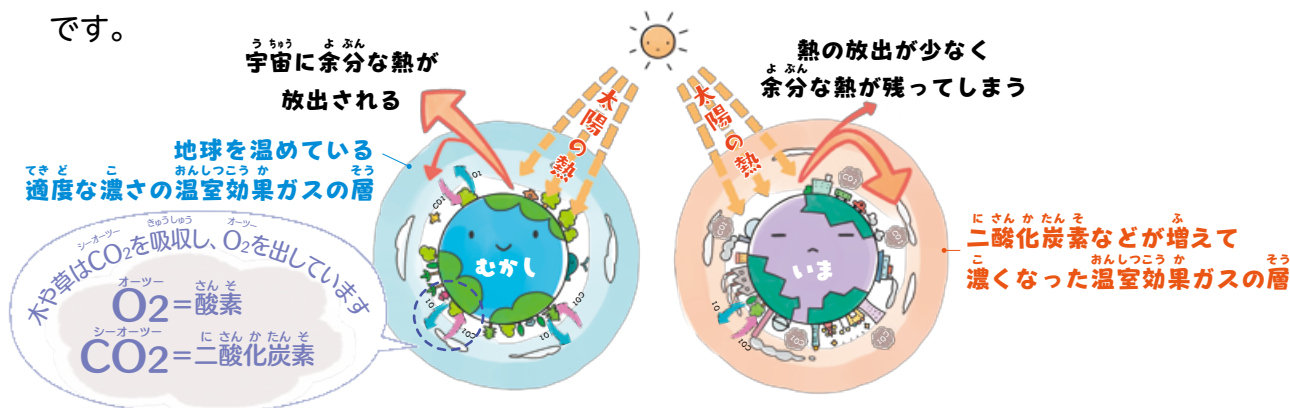
● 世界平均地上気温の変化



資料：気候変動に関する政府間パネル（IPCC）「第5次評価報告書統合報告書政策決定者要約」

温室効果ガスとは？

地球の表面から出る熱を吸収して温度を保つ性質を持つ「温室効果ガス」の増加が、地球温暖化の主な原因と考えられています。日本の排出する温室効果ガスの90%以上は炭素を含んだ物を燃やすと出てくる二酸化炭素です。技術革新が進んだ産業革命以降、発電や移動のために、化石燃料を燃やすようになった暮らし方の変化が、地球温暖化に結び付いているといえます。二酸化炭素以外に、代替フロン※1と呼ばれる物質も温室効果ガスの一種です。



※1：一部の冷蔵庫やエアコンなどに使われている物質で、二酸化炭素の150～1万倍の温暖化効果があり、国際的な取り決めにより、将来的な生産量・使用量の削減が義務づけられることになった。